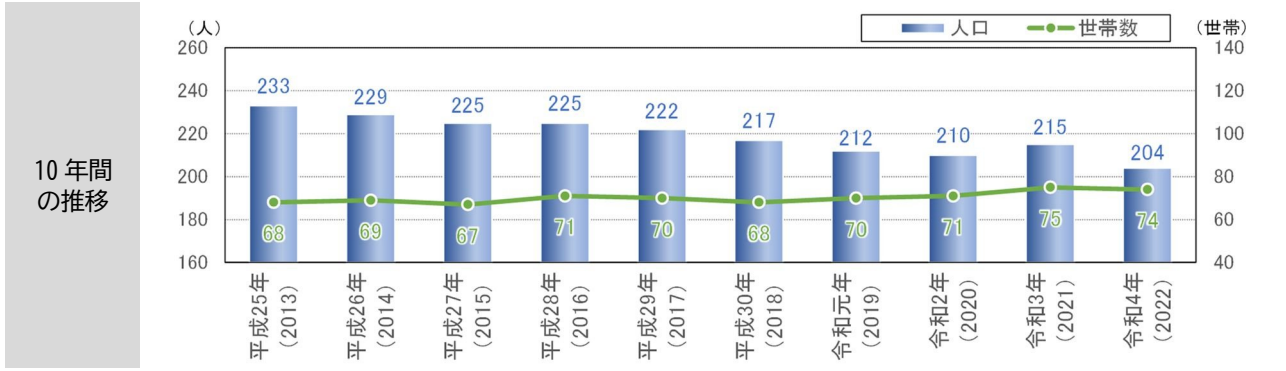
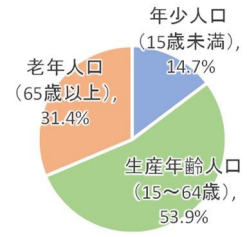


	世帯数	人 口	年齢別人口
現 在	74 世帯	204 人	15 歳未満 (年少人口) 30 人
			15~64 歳 (生産年齢人口) 110 人
			65 歳以上 (老年人口) 64 人
約 50 年前	52 世帯	204 人	



歴史等

加治谷では縄文時代頃から人々が暮らしを営んでいたと考えられます。なかでも、6世紀末の古墳時代後期後半の築造とされる妙徳山古墳は、市川流域では最大級を誇る横穴式石室をもち、地域の有力者の墓であったと考えられます。この他にもピワクピ古墳群などの古墳時代後期の古墳があります。また方形の竪穴住居や掘立柱建物の遺構が確認された加治谷藪下五反畑遺跡は、これらの古墳に係る集落遺跡と考えられています。

古代律令制では播磨国神前郡川辺里に含まれたと考えられ、平安時代には妙徳山神積寺が開基されたとされ、小字地名にも寺との関連する地名が多く伝わります。中世は田原荘に含まれたと考えられ、鎌倉時代には、神積寺の追儼（鬼追い）が始められたと伝わります。

延宝3年（1675）に大門村から分村して村が成立し、元禄年間（1688～1704）の『元禄郷帳』には「古八大門村、加治谷村」とあります。姫路藩領で、大庄屋組は、はじめは川辺組、元文2年（1737）から辻川組に属しました。岩尾神社前には、江戸時代初期に姫路城主の命で奉獻したと伝わる石造鳥居や同時期の石橋が残ります。寛延3年（1750）の加治谷村明細帳によると、家数は45軒・人数212人でした。明治9年（1876）に東田原村の一部となりました。



岩尾神社



石造鳥居



石橋



秋祭り・屋台



追儼 (鬼追い)



妙徳山古墳の石室

※現在の人口・世帯数・年齢別人口は令和4年5月末時点、10年間の人口・世帯数の推移は各年5月末時点、約50年前の人口・世帯数は昭和52年6月末時点であり、いずれも住民基本台帳による値です。なお、年齢別人口のみ外国人を含む値になっています。

歴史文化遺産一覧

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり					
				①	②	③	④	⑤	⑥
建築物	1 岩尾神社本殿	慶長 16 年 (1611)	慶長年間に幕命により池田輝政が前殿、拝殿、鳥居を修造させた。小規模な社殿で、軒廻りや縁、浜床に後補の跡が見られるが、その他はよく保存されている。極彩色で桃山時代の余風を伝え細部手法もその頃の技風をよく示している貴重な遺構である。 【県指定有形文化財】				●		
	2 悟真院唐門	江戸時代中期	妙徳山神積寺の院の一つの悟真院にある門。総高 4.5m で本瓦葺きの唐門。規模は余り大きくないが、落ち着きがあり、唐門らしい剛健な風を見せている。福崎町の唐門を知る上での貴重な資料となっている。 【町指定有形文化財】				●		
	3 神積寺本堂	天正 15 年 (1587)	正面五間、側面六間で一間の向拝が付く。入母屋造、平入で本瓦葺。昭和 7 年 (1932) に修理されている。				●		●
	4 神積寺奥院	17 世紀前半か	正面三間、側面三間半。方形造、本瓦葺。				●		●
石造物	5 石造鳥居	慶長 16 年 (1611)	総高 3m28 cm、全長 4m96 cm の石凝灰岩製の鳥居。杳石を用いていない点や高さの割合に比べて幅が広く、柱の内転もない点は古調を帯びたつくりである。この鳥居は姫路城主の命により奉獻したと伝えられる。 【県指定有形文化財】				●		●
	6 石橋	江戸時代初期	岩尾神社前の小川にかかる凝灰岩製の石橋。橋の両側には勾欄を設けていたと見られ、親柱を差しこんだ跡が残る。刻銘はないが、石造鳥居と同時期のものと考えられる。簡素ではあるが江戸時代初期の神橋形式を知る上でも貴重な資料である。 【県指定有形文化財】				●		●
	7 阿弥陀種子板碑	—	高さ 1m53 cm、幅 82 cm、厚さ 19～21 cm の凝灰岩製の板碑。正面に大きく阿弥陀如来の種子「キリーク」が刻まれている。種子の下には安喜門院の百か日に建立された供養塔であることが記されている。 【県指定有形文化財】				●		

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
建造物 石造物	8	石燈籠	天和3年 (1683)	左右一対の石灯籠。銘文は左右共に「奉寄進薬師如来 御宝前為二親菩提也」「天和三癸亥 三月十七日」「神東郡北山田村施主助左衛門」であり、北山田村(現姫路市)の助左衛門が両親の菩提を弔うために、天和3年(1683)に寄進したことがわかる。 【町指定有形文化財】				●		●
	9	石造宝塔(残欠)	暦仁2年 (1239)	基礎と塔身のみで、笠を失っている。塔身の正面には、蓮華座上に仏像が刻まれている。基礎の正面には「尺迦仏滅後二千二百年」と、釈迦入滅後の年数が刻まれており、仏滅紀年塔と呼ばれるめずらしい石塔である。また、造立の紀年銘(暦仁2年・1239)は、県内で2番目に古いものである。 【町指定有形文化財】				●		
	10	大日如来立像(岩尾神社裏山)	正徳2年 (1712)	大日如来の石仏。台座正面には造立年月とともに「大日講中 加治谷村」と記されている。				●		
	11	三十三カ所観音(神積寺)	不明	境内に西国三十三所札所の本尊を写した石仏が三十三基造立され、それぞれに番数と寺名、それを供養した人物などが刻まれている。				●		
	12	地藏菩薩立像(神積寺)	元禄2年 (1689)	地藏菩薩の石仏。正面には像容とともに「元禄二己巳三月廿四日 □□兵衛□作 □□」と記されている。				●		
	13	地藏菩薩立像(神積寺仁王門前)	享保12年 (1727)	地藏菩薩の石仏。台座正面には「□□□ 享保十二年丁未十一月廿四日」と記されている。像高79cm。				●		
	14	地藏菩薩坐像(悟真院前)	文化6年 (1809)	地藏菩薩の石仏。台座正面には「法印慧興建立」、左に造立年月が記されている。				●		
	15	一字一石塔(悟真院)	文化10年 (1813)	塔身には「妙法蓮華経卷第一」から「妙法蓮華経卷第八」が記され、基礎正面には「三界万霊 一石一字」、右に施主、背面に造立年月日等が記されている。				●		
16	経典供養塔(神積寺)	正徳2年 (1712)	六十六部に関連する経典供養塔。正面には造立年月日等とともに梵字と「大乘妙典六十六部供養」の文字が記されている。				●			

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭り信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
建造物 石造物	17	三界万霊塔（悟真院）	昭和 38 年 (1963)	正面には「為三界万霊位」、右に施主、左に造立年月日等が記されている。				●		
	18	万人・千人供養塔（神積寺）	寛保 3 年 (1743)	地藏坐像の台石。正面には造立年月日等とともに「千人供養之処」の文字が記されている。地藏菩薩は頭部が欠けていたが補修されている。肩以下の高さ約 28 cm である。				●		
	19	廻国塔（神積寺）	明和 2 年 (1765)	地藏立像の台石。正面には造立年月日・施主とともに「日本回国供養」の文字が記されている。地藏菩薩は頭部が欠けていたが補修されている。肩以下の高さは約 57 cm。町内で最も古い廻国塔。				●		
	20	石灯笼（大歳神社）	寛保元年 (1741)	石灯笼。正面には「奉造立灯笼一基 寛保元年施主当邑新十郎 敬白 当病平癒之欣西九月吉且」と記されている。				●		
	21	石灯笼（悟真院前）	文化 12 年 (1815)	左右一対の石灯笼。左右ともに正面に「奉献灯」、各側面にそれぞれ造立年月と願主、背面に「現住法印恵興代」と記され、台座正面には右灯笼は「宇佐屋紋右衛門」、左灯笼は「宇佐屋兵右衛門」と記されている。				●		
	22	石灯笼（悟真院墓地）	文政 12 年 (1829)	石灯笼。正面に「奉灯」、右に造立年月、左に施主が記されている。				●		
	23	石灯笼（悟真院墓地）	天保 13 年 (1842)	石灯笼。正面には「常夜灯」、左に造立年月が記され、台石の正面には「寺子中」と記されている。				●		
	24	石灯笼（悟真院墓地）	天保 13 年 (1842)	石灯笼。正面には「常夜灯」、右に造立年月が記され、台石の正面には「寺子中」と記されている。				●		
	25	石灯笼（大歳神社）	安政 2 年 (1855)	石灯笼。正面に「大歳大明神」の文字とともに造立年月日、施主が記されている。				●		
	26	石灯笼（岩尾神社）	不明	左右一対の石灯笼。右灯笼の正面に「石鏡分金殿燭」、左灯笼の正面に「山谷月桜鐘」と記されている。				●		
27	手水石（神積寺）	寛永 2 年 (1625)	手水石。正面に造立年月日等とともに「妙徳山神積寺 宗心信」と記され、背面に施主が記されている。				●			

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
建造物 石造物	28	手水石（岩尾神社）	元治元年 (1864)	手水石。正面に「妙徳山文殊堂」の文字とともに造立年月・願主・世話人等が記されている。				●		
	29	手水石（大歳神社）	不明	手水石。右に「□□二年 戌□□□」と造立年月が記されていると思われるが判読できない。				●		
	30	井筒（岩尾神社）	文久3年 (1863)	井筒。正面に「石梓 施主 松岡氏」と記されている。				●		
	31	五輪塔（悟真院墓地）	不明	五輪塔。				●		
	32	石碑（神積寺）	文久2年 (1862)	石碑。正面に「嶮道碑」の文字とともに由来等が記されている。				●		
	33	石碑（岩尾神社裏山）	文久2年 (1862)	石碑。正面に由来と造立年等が記されている。				●		
	34	道標（悟真院墓地移設）	明治29年 (1896)	道標。正面には地藏菩薩の像容とともに「右 ヒメジ 先祖代々 左 ハタ□」と記されている。				●	●	
	35	墓碑（悟真院墓地）	明暦3年 (1657)	墓碑。正面には造立年と「□□□善禪定門灵位」の文字が記されている。				●		
	36	墓碑（神積寺墓地）	延宝元年 (1673)	墓碑。正面には造立年月日とともに「□□宗心信士 灵位」と記されている。				●		
	37	墓碑（悟真院墓地）	延宝6年か (1678)	延宝元年(1673)9月4日、延宝6年(1678)9月27日造立。墓碑。正面には「慧吉智信士 □妙定信女」と記されている。				●		
	38	墓碑（悟真院墓地）	天和元年 (1681)	墓碑。正面には造立年月日とともに梵字と「淫覚信士 □□□□ 灵位」の文字が記されている。				●		
	39	墓碑（悟真院墓地）	貞享元年 (1684)	墓碑。正面には造立年月日とともに梵字と「妙寿禪定尼灵位」の文字が記されている。				●		
	40	墓碑（悟真院墓地）	貞享2年 (1685)	墓碑。正面には造立年とともに梵字と「□香禪定尼灵位」の文字が記されている。				●		
	41	墓碑（悟真院墓地）	元禄3年か (1690)	墓碑。正面には造立年月日とともに梵字と「香月妙薫禪定尼灵位」、梵字と「覚月浄春禪定門灵位」の文字が記されている。				●		
42	墓碑（神積寺墓地）	元禄4年か (1691)	墓碑。正面には造立年月日とともに梵字と「□浄円信士 □妙延信女」などの文字が記されている。				●			

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

加 治 谷

分類	名称		年代	概要	歴史文化ものがたり					
					①	②	③	④	⑤	⑥
建造物 石造物	43	墓碑（悟真院墓地）	元禄6年 (1693)	墓碑。正面には造立年月日とともに梵字と「三界万霊法界」などの文字が記されている。				●		
	44	墓碑（加治谷墓地）	元禄8年 (1695)	墓碑。正面には造立年月日とともに梵字と「宝閣宗珎信士 □□□□□ □ 各一蓮」の文字が記されている。				●		
	45	墓碑（加治谷墓地）	元禄9年か (1696)	墓碑。正面には造立年月日とともに梵字と「南無阿弥陀仏」などの文字が記されている。				●		
	46	墓碑（文殊荘道路傍）	元禄10年 (1697)	墓碑。正面には造立年月日とともに梵字と「□□□居士 □智鏡信女一蓮」の文字が記されている。				●		
	47	墓碑（悟真院墓地）	元禄11年 (1698)	墓碑。正面には造立年月日とともに梵字と「為粮誉善霊信士菩提也」などの文字が記されている。三木家の墓碑。加治谷墓地に位置していたが、悟真院墓地に移設された。				●		
	48	墓碑（悟真院墓地）	元禄11年 (1698)	墓碑。正面には梵字と「道寿禅定門 元禄十一年各灵位 妙閑禅定尼 七月三日」の文字が記されている。黒田家の墓碑。加治谷墓地に位置していたが、悟真院墓地に移設された。				●		
	49	墓碑（神積寺墓地）	元禄12年 (1699)	墓碑。正面には造立年月日とともに梵字と「妙賀童女灵位」の文字が記されている。				●		
	50	墓碑（神積寺墓地）	元禄16年か (1703)	墓碑。正面には造立年月日とともに梵字と「浄安禅定門 妙嚴禅定尼 霊位」の文字が記されている。				●		
	51	墓碑（悟真院墓地）	明治32年 (1899)	墓碑。正面には「倉本櫟山翁墓」と記されている。				●		
	52	義太夫師匠墓碑（悟真院墓地）	明治34年 (1901)	墓碑（義太夫師匠）。正面には「竹本勢王碑」と記されている。	●			●		
	53	竹本玉宝之墓	大正15年 (1926)	墓碑（義太夫師匠）。正面には「竹本玉宝之墓」と記されている。	●			●		
美術工芸品 絵画	54	岩尾神社祭礼図（岩尾神社）	不明	奉納者は不明。168×211 cmの祭礼行事大絵馬。	●			●		
	55	武者馬術絵図（大歳神社）	安政2年 (1855)	奉納者は「当村氏子中」、世話（発起）人は「要助」とある。103.5×148 cm。	●			●		
	56	騎馬武者絵図（大歳神社）	大正15年 (1926)	奉納者は「当村氏子午年男」とある。82×109 cm。	●			●		

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
絵画	57	騎馬武者絵図(大歳神社)	慶応元年(1865)	奉納者は「当村」とある。98.5×145 cm。	●			●		
	58	中国故事題材図(大歳神社)	文化11年(1814)	文化11年(1814)晩秋8日奉納。奉納者は不明。104×119.5 cm。	●			●		
	59	文字額(大歳神社)	不明	奉納年月日は「□□辛酉年9月」とあるが詳細は不明。奉納者は不明。42.5×193 cm。	●			●		
	60	文字額(大歳神社)	不明	奉納者は不明。42×192 cm。	●			●		
	61	尉と姥面額(大歳神社)	明治3年(1870)	奉納者は「当村氏子 新兵 仲次郎」とある。姥面紛失。52.5×95 cm。	●			●		
	62	神積寺祭礼図(神積寺)	嘉永3年(1850)	奉納者は不明。147×199 cm。	●			●		
美術工芸品	彫刻	63	木造薬師如来坐像	鎌倉時代				●		
		64	木造文殊菩薩坐像	—	神積寺にある仏像で高さは51.3 cm。ヒノキ材で造られた南北朝時代の制作と考えられ、本躰と台座や光背、飾りに至るまで当初のまま残っている貴重な仏像である。 【町指定有形文化財】				●	
		65	木造阿弥陀如来坐像	平安時代中期	神積寺にある仏像で高さは37.5 cm。奈良時代から平安時代前期によく使われたカヤ材が使用されていること、古様の座り方をしていることなどから、平安時代中期(10世紀)の制作と考えられる。慶芳上人が神積寺を創建したと伝える時期(正暦2年・911)と近く、寺の創建にかかわる仏像の可能性はある。 【町指定有形文化財】				●	
工芸品	66	岩尾神社襖絵	昭和46年(1971)	本殿の中、両脇にある獅子の襖絵。天保7年(1836)初夏号観江画のものを昭和46年(1971)に複写したものである。				●		

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

加 治 谷

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり									
				①	②	③	④	⑤	⑥				
美術工芸品	書跡・典籍・古文書・歴史資料	67	加治谷区有文書	—	100 件、105 点。		●						
		68	悟真院文書	—	12 件、12 点。		●						
有形の民俗文化財	祭具	69	屋台（加治谷区）	—	布団屋根型屋台。大正 8 年（1919）に造られて以来、地区のシンボルとして区民に親しまれている。屋根は金綱を使用し、布団は緑色で稲穂を表現し、五穀豊穡を祈願している。				●		●		
無形の民俗文化財	年中行事・民俗芸能	70	秋祭り（田原）	—	田原地区の屋台 12 台（布団屋根型 10 台、神輿屋根型 2 台）・神輿 1 台が熊野神社に集まる。本宮では、各屋台が鳥居をくぐった後に拝殿前で差し上げを行い、境内を回った後、拝殿の裏を回り定位置に据えられる。屋台の宮入りが終わると境内中央の舞台上で浄舞、浦安の舞が奉納される。			●	●		●		
		71	追儼（鬼追い）	—	正月行事「修正会」の一部で、神積寺の本尊薬師如来の使者「山の神」と家来の「青鬼」「赤鬼」が邪気を払う所作を行う。鎌倉時代より始められたと伝えられ、当時は勅使をむかえて 1 月 8 日に行われていたが、江戸時代に 1 月 15 日（旧暦）となり明治以降は新暦の 1 月 15 日となった。現在は、毎年成人の日に行われている。 【町指定無形民俗文化財】				●		●		
		72	初詣	—	1 月 1 日に大歳神社で行われる。					●			
		73	初午	—	2 月に重成大明神で行われる。子ども相撲が行われている。					●			
		74	斎灯	—	2 月 3 日大歳神社で行われる。令和 4 年（2022）までは 12 月 31 日にも行われた。						●		
		75	夏まつり	—	7 月に大歳神社で行われる。						●		
		76	地藏盆	—	8 月 23 日に公民館などで行われる。						●		
遺跡	散布地・集落跡・生産遺跡等	77	妙徳山遺跡	古墳時代	溝状遺構や通路跡と思われる遺構の他、神積寺との関わりがあると考えられる五輪塔や宝篋印塔などの石造物や瓦が見つかっている。		●						
		78	加治谷前田遺跡	弥生時代中期後半	弥生時代中期後半の集落遺跡。竪穴住居が確認されている。		●						

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
遺跡	散布地・集落跡・生産遺跡等	79	加治谷越前遺跡	弥生時代中期後半	弥生時代中期後半の集落遺跡。竪穴住居に加え、掘立柱建物跡が確認されており、中世中頃の開基と伝わる神積寺との関わりが注目される。					
		80	加治谷大垣内遺跡	縄文時代～弥生時代	土坑から縄文土器と石匙が出土し、他にも石鏃や未成品のチップが出土していることから、縄文時代から集落が形成されていた可能性が高い。弥生時代中期後半の竪穴住居も確認されている。					
		81	加治谷垣ノ内遺跡	弥生時代～中世	弥生土器と思われるものや、古墳時代の須恵器の杯など、弥生時代から中世にかけての遺物が出土し、竪穴住居も確認された集落遺跡である。					
		82	加治谷大谷遺跡	奈良時代～中世	奈良時代から中世にかけての集落遺跡。					
		83	加治谷藪下五反畑遺跡	古墳時代～平安時代	造り付けカマドのある方形の竪穴住居や掘立柱建物が確認されている古墳時代から平安時代の集落遺跡である。妙徳山古墳やビワクビ1号・2号墳と同時期であり、これらの古墳に関係する集落と考えられる。					
		84	北野寺西遺跡	弥生時代中期	弥生時代中期以降の円形周溝墓が確認され、辻川山山麓から出土した弥生時代中期の甕棺を含めて、上大明寺遺跡の墓域の可能性もある。平安時代の竪穴住居、中世の方形竪穴住居や掘立柱建物、溝状遺構も見つかっている。					
古墳・その他の墓		85	妙徳山古墳	古墳時代	神積寺のそばにある。直径約35m、高さ6m以上の2段築成の円墳と考えられている。6世紀末頃の築造と考えられ、横穴式石室は、全長約12.4m、玄室長6m、高さ約3.2m、羨道部長約6.4m、高さ約2.4mをはかり、市川流域では最大級を誇る。 【県指定史跡】					
		86	ビワクビ1号墳	古墳時代後期	古墳時代後期の円墳（直径20m）。岩尾神社東側の尾根筋上に位置するビワクビ古墳群（2基）のひとつ。南に開口する石室の一部が露出している。					

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

加 治 谷

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
遺跡	古墳・その他の墓	87	ビワクビ2号墳	古墳時代後期	古墳時代後期の円墳。岩尾神社東側の尾根筋上に位置するビワクビ古墳群(2基)のひとつ。石室は埋もれており、石室内の状況は不明である。					
		88	尾森古墳	古墳時代	古墳時代の円墳。南に開口すると思われる石室は、横穴式(長さ約7m)であり、石室の一部が残存している。					
	古道・街道等	89	生野鉱山寮馬車道	明治9年(1876)	生野鉱山(朝来市)と飾磨津(姫路市)を結ぶ全長49kmの馬車道。鉱山物資等を運ぶための産業道路として、明治6年(1873)に計画し、明治9年(1876)に完成した。当時の道路構造を保つところは少ないが、現在も道路として使用され、当時の道筋を知ることができる。					
90		生野街道(但馬道)	—	姫路から但馬へと通じる南北道。道標には「但馬道」と記されているものが多く確認されるため、江戸時代には「但馬道」と呼ばれていたことが分かる。						
名勝地	山岳	91	妙徳山(文殊御山の森)	—	大門宮山・妙徳山・辻川山の3つの小山は、遠方から望むとあたかも3匹の獅子が横たわっているように見えることから、三獅子山と呼ばれると伝わる。神積寺の北側にある妙徳山には、観音巡りができる文殊御山の森コースがある。					
	河川・滝	92	雲津川	—	東雲津橋の西約70mの所に「雲津川改修記念碑」がある。大正7年(1918)から改修費用を積み立て、昭和3年(1928)の天皇即位に伴う記念事業として県費補助を受け、昭和4年(1929)3月に竣工したという。その後も昭和45年度や平成6~12年度頃に部分改修が行われ、平成11年(2009)には雲津川に架かる巖橋が辻川山に移設・保存された。					
動物・植物・地質鉱物	植物	93	神積寺の森	—	神積寺の樹林。 【町指定保存樹】					
		94	岩尾神社のサクラ	—	岩尾神社入口、石鳥居の周辺に位置するサクラの木。					

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり					
				①	②	③	④	⑤	⑥
文化的景観	95 西光寺野用水 (岡部川疎水路)	大正3年 (1914)	大正3年(1914)に完成した用水路。西光寺野土地改良区が所有・管理して、現在も農業用水路として利用されている。全長540mの煉瓦トンネルも残る			●			
その他	信仰の場	96 神積寺	—	天台宗比叡山派に属す。正暦2年(991)慶芳上人によって開基され、一条・三条両天皇のあつい帰依を受けたと伝えられる。本尊薬師如来(国指定重要文化財)、脇土に文殊菩薩、毘沙門天を安置する。俗に田原文殊として知られ、播磨天台六山の一つに数えられている。				●	●
		97 悟真院	—	神積寺の末院であり、本尊は薬師如来である。敷地内には悟真院唐門(町指定文化財)やふれ愛観音堂がある。				●	
		98 岩尾神社	—	天八意思慮兼神ほか2神体を祭神とし、慶芳上人が神積寺を開基する際、本神社へ文殊像をあわせ祀られたとされる鎮守社である。				●	
		99 大歳神社	—	大年神を祭神とする加治谷区の氏神。詳細な創始年代は不明。境内に加治谷の屋台蔵がある。				●	
	寺社の行事	100 文殊会式	—	3月春分の日、神積寺で行われる。知恵の文殊といわれ、学問、就職成就が叶えられるといわれている。				●	
民間説話・地名・伝承地・屋号等	101 神積寺と岩尾神社の開基伝説	—	慶芳上人が、諸国巡錫をしていた時、正暦2年(991)3月8日に辻川の有井堂にて文殊菩薩のお告げがあり、一条天皇の勅により開山し、薬師如来を本尊として祀ったと伝わる。その際、岩尾神社へ文殊像をあわせ祀ったとされ、同社は文殊堂とも呼ばれていたという。				●	●	
	102 北野の文殊	—	播磨の北野村の文殊が天橋立の切戸の文殊を訪れ、切戸の景色の良さやお参りの人の多さに感心し、知恵をつかって切戸の文殊と入れ替わるといふ説話。				●	●	

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りや信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

歴史文化遺産の保存・活用の取組等

- ・ 神積寺総代、鬼講（鬼子）によって妙徳山神積寺追儼式保存会を組織し、鎌倉時代より伝承されてきた修正会の正月行事である追儼（鬼追い）の後継者の育成に努め、各世代間の相互交流に取り組んでいます。
- ・ 加治谷まつり保存会を組織し、地域に伝わる伝統芸能の子どもたちへの伝授、後継者の育成に取り組んでいます。
- ・ 老朽化により倒壊の危機にあった神積寺仁王門について、神積寺総代会が中心となって田原地区区長と連携し、修理工事を実施しました。



妙徳山神積寺追儼式保存会



後継者の育成



神積寺仁王門の修理